

地理科
補習用

臺灣地圖

附地誌略

全

57

1967
K121,2
15,2

K121.2

15.2

岡村增太郎校閱
篠崎純吉著

地理科
補習用

臺灣地圖

附地誌略

大阪 教育書房發兌

臺灣諸島之圖

比例尺三十二萬分一

日 赤 北

德 基 經 本 零 度

福建省

彰化縣

彰化縣

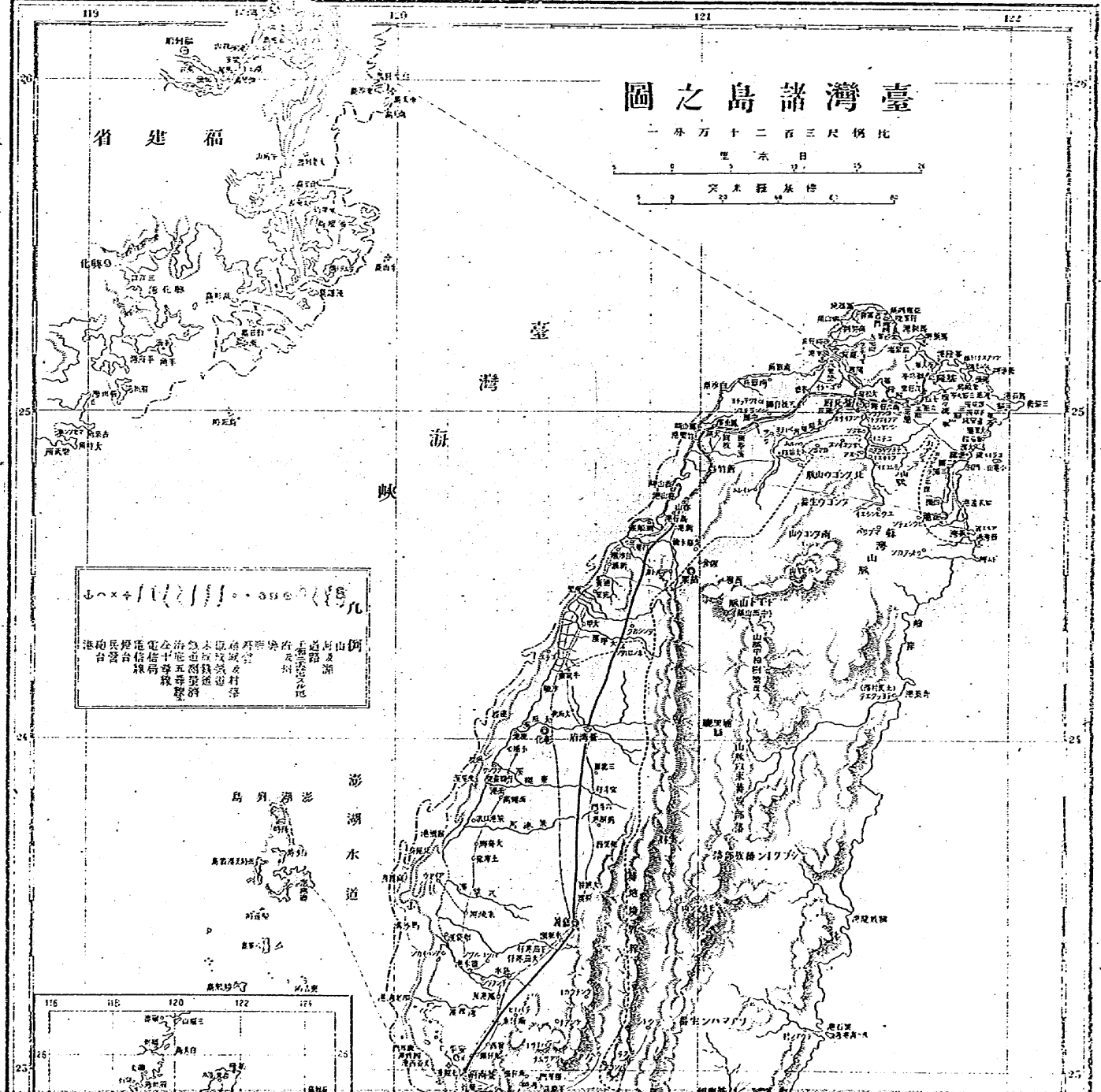
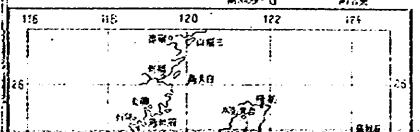
彰化縣

臺灣海峽

臺灣

山 湖 河 溝 堤 壩 橋 樑 港 澳 運 河 水 道 鐵 道 公 路 郵 政 線 路 電 訊 線 路 電 力 線 路 治 理 水 道 本 國 領 土 界 限 界 限 界 限 界 限 界 限 界 限

澎湖水道



臺灣諸島之圖

一九三九年十二月一日

文部省編纂

福建省

基隆

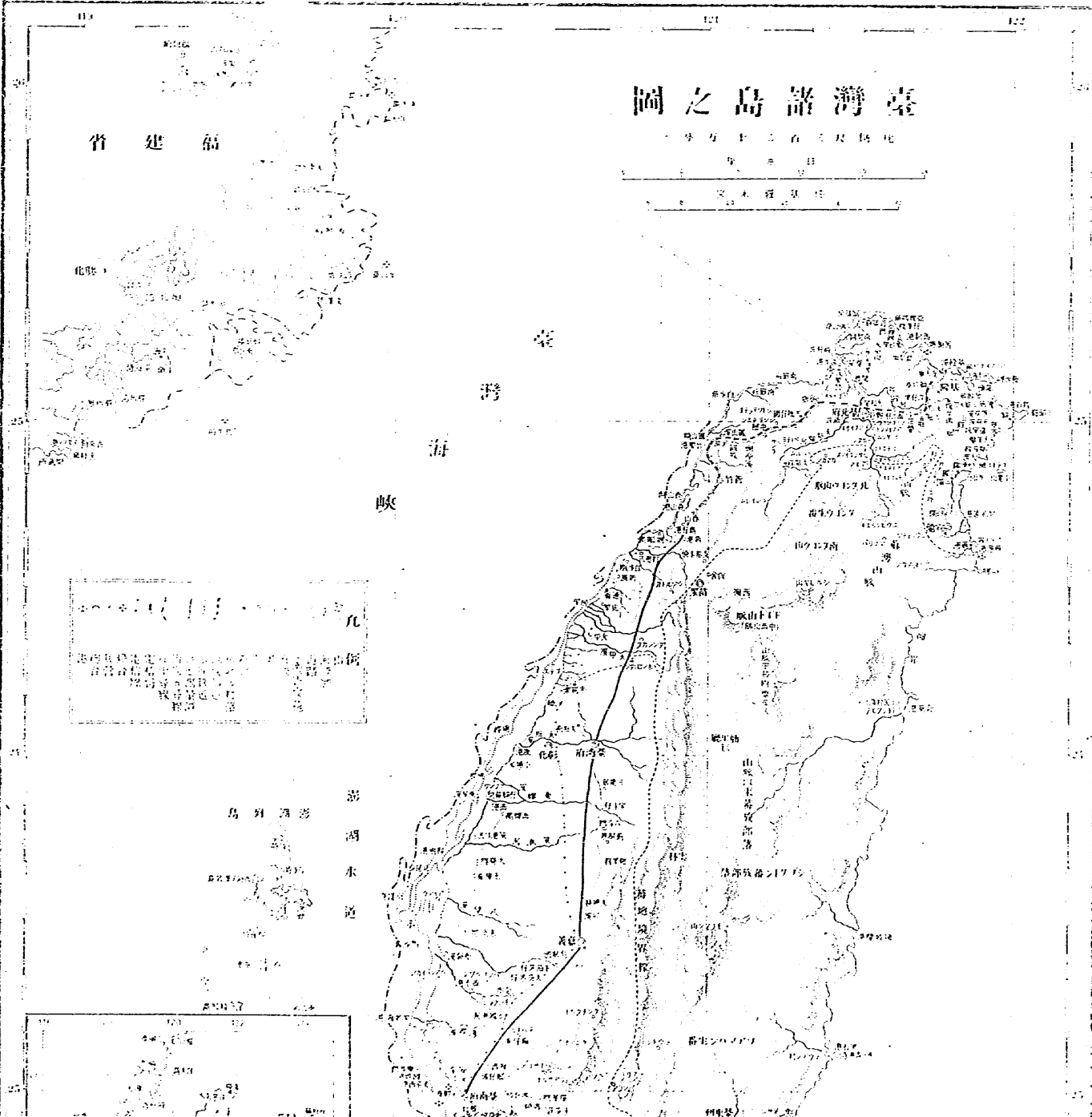
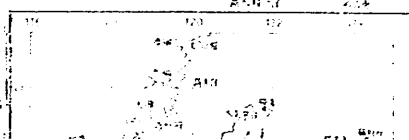
九

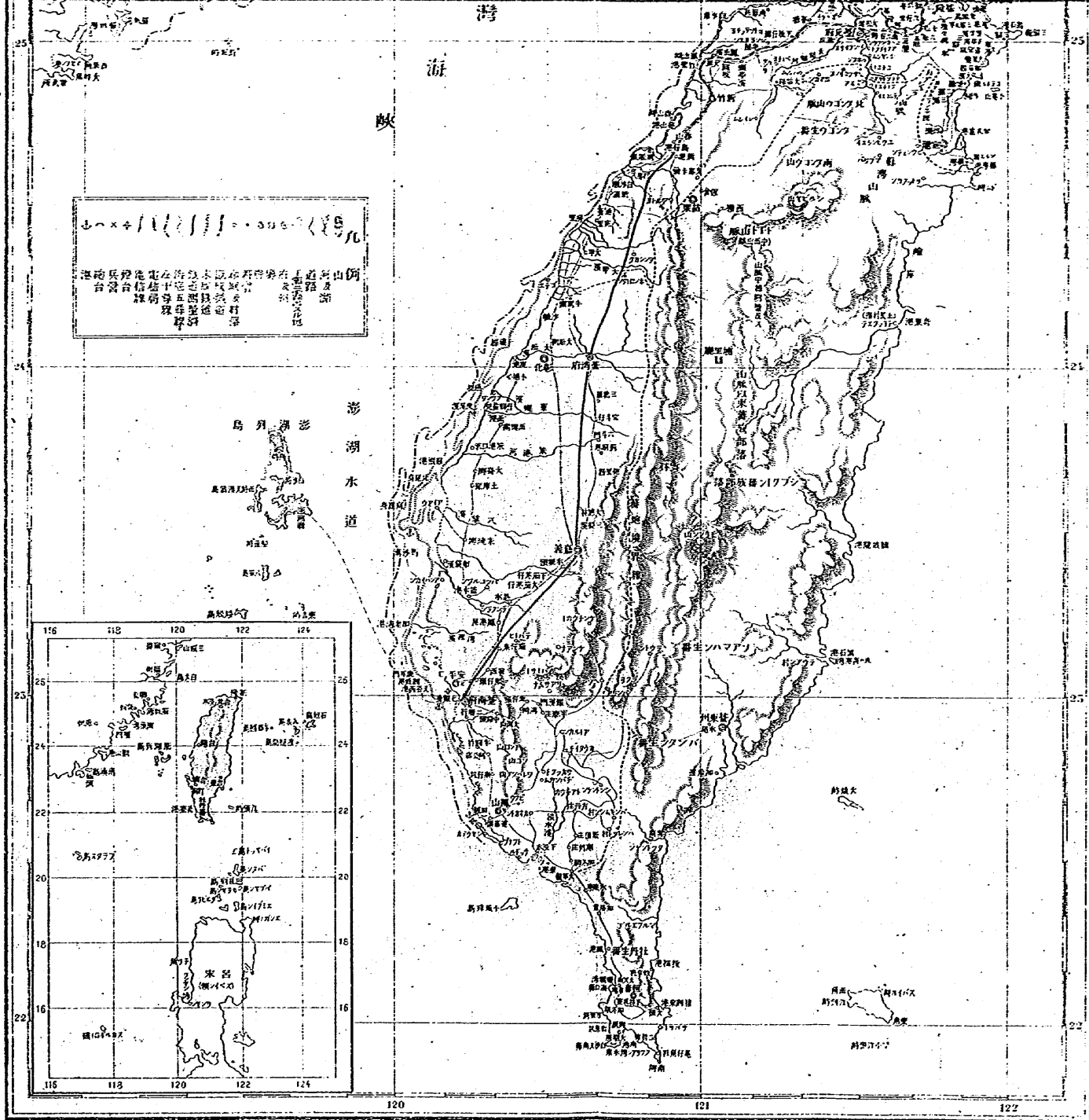
臺灣諸島の位置

臺灣諸島は福建省の南にあり、北緯22度から25度、東経120度から125度の間に位置する。島の面積は約36,000平方キロメートルである。人口は約2,000万人に達する。島の地形は山岳地帯が多く、気候は亜熱帯性である。島の産業は農業、林業、漁業、工業などである。

澎湖水道

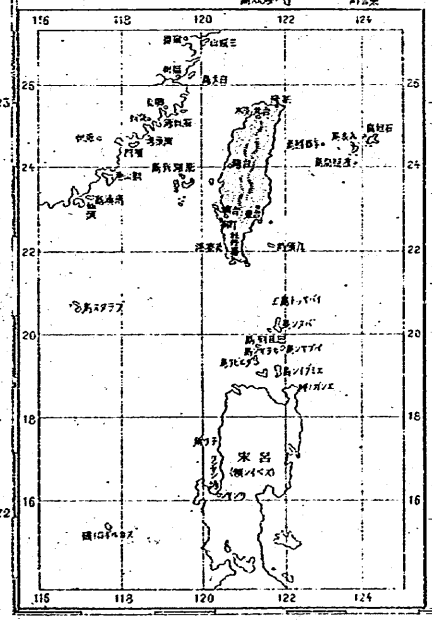
澎湖列島

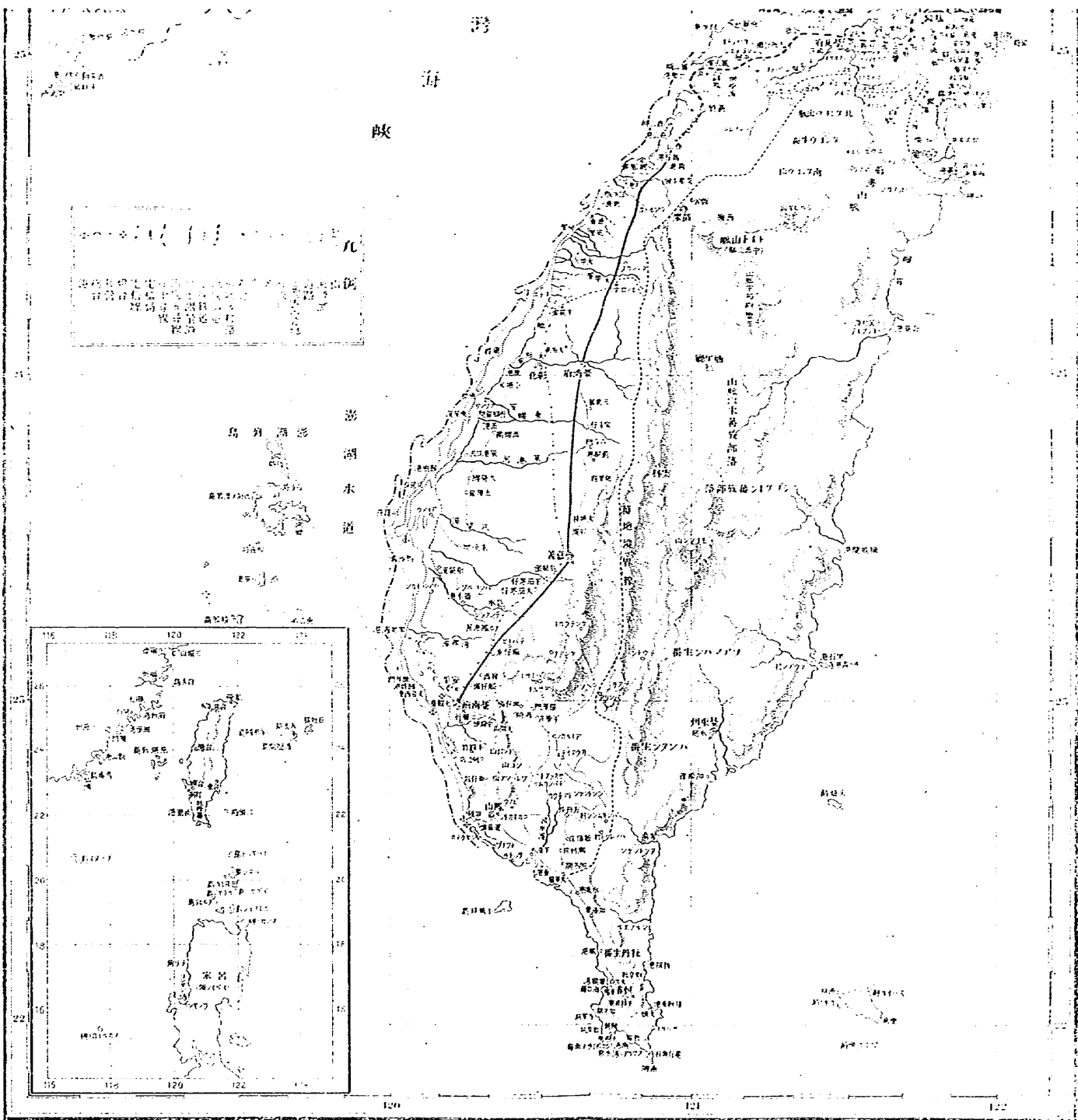




山 例
 道路
 河及湖
 森林
 村落
 田園
 五等市
 高等市
 先鋒隊
 兵營
 砲台
 海峽

澎湖水道





地理科 臺灣地圖附地誌略
補習用

沿革

西班牙人がふひりつびん群島ヲ占メ、葡萄牙人が清國廣東省ノ澳門ニ殖民地ヲ開カシ、スルニ當リ、和蘭人ハ大ニ此ノ舉ヲ憤リテ、遂ニ澎湖島ヲ占メ、ヨリ進ミテ臺灣本島ニヨリ、永ク貿易ヲ營ミ居リシガ、後鄭成功ノタメニ驅リタテラレ、康熙年間ニ至リ、清國ニ屬セシガ、明治二十八年五月十日、全ク我が版圖ニ歸セリ。

位置

臺灣島ハ東海ニ屹立セル大島ニシテ、其ノ形殆ト海鼠ノ如ク、北ヨリ南ニ延ビ、西ハ支那本部ナル福建省ニ面シ、北緯二十一度五十分ヨリ、二十五度十六分ニ至リ、東經一百二十度十五分ヨリ、一百二十二度四分ニ至レリ。



廣表

臺灣島ノ南北ハ殆ド二百三十英里ニシテ、東西ノ最モ大ナル處ハ、七十英里ヨリ、八十英里ニ達シ、面積ハ、二万四千九百八十二英里ヲ有セリ。

人口

臺灣島ノ人口ハ、支那人及ビ、熟蕃人ヲ合セテ、二百五十萬乃至三萬ノ間ニアリ、生蕃人ノ數ニ至リテハ、ユレヲ知ルニ由ナシ。

地勢

島内ノ大部分ハ、高キ山峻シキ嶺重リテ、其ノ高サ、一万尺ノ上ニ出ヅルモノ少カラズ、而シテ其ノ東半部ハ、山岳起伏シテ、未開ノ蕃地ナレドモ、西半部ハ、地勢平坦ニシテ、耕作地モ亦多シ。

山脉

島内ノ山脉ハ、北ヨリ起リテ、南ニ奔リ、終ニ、しるびや及ビ、もりろンノ二山ニ達ス、此ノ二山ハ、生蕃ノ中央ニ峙立シ、海面ヲ抜クコト、しるびやハ、一万一千三百尺ニシテ、もりろンハ、一万二千八百五十尺ナリ。

河湖

島中、運輸ニ便ナル大河ナシ、唯、舟楫ノ利便アルハ、淡水河ノ一流アルノミ、此ノ河ハ、中央ノ山間ニ發源シ、東北ニ流レテ、基隆ニ至リ、轉シテ西流シ、山間ヲ出入シテ、臺北ノ南方ヲ流レ、繞リテ西ニ至リ、又北流シテ、滬尾ニ至リ、南方ヨリ來レル、しんやしむ川ト、南西ヨリ來ル處ノ、大姑陷川トヲ合セテ、海ニ入ル。

湖水ハ、各所ニ散在スレドモ、其ノ最モ大ナルモノヲ、本島ノ中央ニアル、水社湖トナス。

港灣

臺灣島ノ海岸線ハ、最モ短クシテ、屈曲少シ、北ニ基隆淡水アリ、西ニ安平、打狗アリ、其ノ他、西岸ニ東港、笨港、布袋嘴港、麥藁港、鹿港等ノ小港少カラズ、又南方ノ琅璫灣、及ビ極南岬ト南西岬トノ間ニアル諸灣ハ、東北定期風ノ間ハ、碇泊場トナスコトヲ得ベシ。

基隆ハ、鷄籠、又ハ、岐龍ト云フ、本島第一ノ港ナリ、三面山ニヨリ、北方僅ニ、航路ヲ開キテ海ニ通ズ、故ニ此ノ港ハ、西南ノ風ヲ避ケ得ルモ、東北ノ風ヲ防グニ適セス、且ツ、潮流極メテ急駛ナリ、港ノ南端ニ基隆街アリ、人口七萬。
淡水港ハ、淡水河口ヲ遡ル、凡ソ、二千メートルノ右岸ニアリ、港内水淺シ、滬尾街ハ、淡水河ノ北岸、二里(日本)ノ處ニアリ、人口十萬、本港ノ鎖鑰タリ。
安平港ハ、舊ト、臺灣港ト云ヒ、一ニ、臺南港トモ云フ、貿易港ナレドモ繁盛ナラズ、西南定期風ノ吹クキハ、波浪ノ激騰甚シ、此ノ港ヨ

リ長崎ニ至ル海路、凡ソ、八百七十海里アリ。
打狗港ハ、旗後、又ハ、岐后ト云フ、通商港ナレドモ、港内水淺クシテ、中體以上ノ汽船、帆船トモニ、錨ヲ下スコト能ハズ、高山峻岳多クシテ、地勢平坦ナラズ。

島嶼

臺灣島ノ西ニ澎湖列島アリ、東南ニ紅頭嶼、火燒嶼等アリ。
澎湖列島ハ、東經百十九度ヨリ、百二十度、北緯二十三度ヨリ、二十四度ノ間ニアル、諸島嶼ニシテ、其ノ中、最モ大ナルモノヲ澎湖島大山、北海島白沙、漁翁島トセリ、此ノ三島相抱合シテ、澎湖港ヲ形成ス、其ノ内部ハ、三十餘隻ノ艦船ヲ容ル、モ、尙ホ餘リアリ、實ニ我が邦西南端ノ最良軍港ト云フベシ、列島中、凡ソ、名稱ノ記スベキモノ五十五ニシテ、其ノ中、人民ノ居住セルモノ、僅ニ、二十一島ニ過ギズ、媽宮港ハ、澎湖島ノ西南ニアリテ、人家、凡ソ七八百戸アリ、

湖汐ノ干満ニ拘ラズ、大艦巨舶ト雖モ、碇泊スルコトヲ得ベシ、此ノ列島ハ、赤土ニシテ、一草一木ヲモ生ゼズ、故ニ、飲料水ニ乏シト云フ。

紅頭嶼ハ、臺灣島ノ東南、二十六海里ニアリ、蕃族多ク居住スレドモ、耕作ノコトヲ知ラズ、漁業、又ハ、牧畜ニ従事セリ、樹木ハ、椰子多ク、動物ニハ、鶏、羊、豕アルノミ。

火燒嶼ハ、紅頭嶼ノ北、三十四英里ニアリ、人口、凡ソ、五百餘ナリ。

都邑

戸數、五百以上ヲ有セル、都邑ヲ舉グレバ、滬尾、金包里、基隆、水返、脚錫、口街、臺北、頭圍、宜蘭、海山口、桃仔園、新竹、後隴、大甲、司、牛馬頭、沙轆、彰化、六斗門、他里務、大埔、林、嘉義、水堀頭、臺南、大湖街、半路竹、南坑、仔鳳山、打狗、安平等ナリ。

名所舊蹟

清佛交戦ノ際、澎湖港ハ、佛軍マヅ、コレヲ占領シテ、根據地トセシ、良港ニシテ、基隆ハ、佛軍、コレヲ陥ル、ニ當リ、大ニ困難ヲ極メタリ、コレ、瀕海ノ諸山、犬牙錯綜、斷崖絶壁ナルヲ以テナリ、淡水モ、亦佛將クうるベシ、艦隊ヲ以テ、砲撃スト雖モ、遂ニ、コレヲ抜クコト能ハザリシ地ナリ、打狗港ハ、明治七年、我が邦、征臺ノ役ニ當リ、一時、船艦ヲ寄泊セシコトアリ、澎湖島ノ馬公城ハ、明治二十七八年、征清ノ役ニ於テ、一大激戦ヲナシ、所タリ。

氣候

氣候ハ、頗ル、温熱ナリト雖モ、健康ヲ害スルコトナク、冬季ハ、高山ノ頂上ニ、屢、雪ヲ見ルコトアレドモ、一枚ノ棉衣ヲ以テ過シ得ベシ、夏季ハ、炎熱甚シケレドモ、常ニ中央ノ山嶺ヨリ、絶エズ、涼風ヲ吹キ降シテ、暑氣ヲ滅殺セルヲ以テ、夜中ハ、殊ニ清爽ヲ覺ユ。春夏ハ、雨少クシテ、旱多シ、秋冬ハ、霖雨時々至リ、烟霧ノ如ク、一往一

來一日ノ中陰霽定ラズ往々此ノ如キコト數日ニ連リテ止マザル
コトアリ。

天氣ハ一年中概シテ快晴ノ日多シト雖モ東北ノ風起ルトキハ砂
塵大ニ飛揚シテ屋内街路ト一般ノ觀ヲ呈スルコトアリ東岸一帯
ハ嶮岨ニシテ常ニ東北ノ定期風暴威ヲ逞シクセリ其ノ最モ強烈
ナルコトハ一ケ年中八ケ月ノ間ナリト云フ。

明治二十年ヨリ明治二十四年ニ至ル五ケ年間ノ毎月平均温度、
左ノ如シ。

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	
最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	
七五・二四五・二	七五	四七・七九・四六・四六・一五・四六・八〇・六九・二九・六六・三九・六七・二四・九八・七二・四九・三六・六四	九〇・九五	八二	五六・七六・三四・九六	五五・七六・三四・九六	五五・七六・三四・九六	五五・七六・三四・九六	五五・七六・三四・九六	五五・七六・三四・九六	五五・七六・三四・九六	五五・七六・三四・九六

明治二十年ヨリ明治二十四年ニ至ル五ケ年間ノ毎月平均雨量

左ノ如シ。

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
三七・〇	六六・六	九一・三	五八・三	七三・三	八二・六	五四・四	四二・三	七九・九	五九・二	四一・九	三・五

礦物

臺灣島西部沿岸一帯ノ平原ヲ除キ少シク内部ニ至ラバ如何ナル
處ニモ石炭脉ヲ有セザルハナシ或ル地方ニハ一種ノ石炭アリテ
最モ可燃質ニ富メリト云フ又北部ノ各地ニアル硫黄山ハ多量ノ
産出アリ。

中央部ノ高山間ニ銅鑛及ビ金銀寶石類ノ如キモノ多シ或ル土人
ハ嘗テ紅水晶ヲ發見セシコトアリト云フ又海邊ニテ粗鬆ナル琥
珀ヲ得シコトアリト云ヘリ。
石油坑ハ打狗及ビ杞うらん近傍ニアリト傳フレドモ現時コレガ

採取ニ從事スルモノナシ。

植物

植物ハ最モ價值アルモノニシテ、纖維ヲ用ヰテ以テ布帛ヲ製スベク、又、食シ得ベキ果實アリ、或ハ以テ食用ニ供スルコト能ハザルモ、コレヨリ油ヲ製スルモノアリ、故ニ、織料植物、製油植物、商業植物ノ三種ニ區別シテ、左ニ記述セン。

織料植物ニハ、苧麻、黃麻、鳳梨、あななす、甘蔗、棕櫚、燈心草、紙桑、あるぴにあむてい、露兜樹、たこのき、稻藁、麥藁、竹、籐、葛、呂宋麻、梧桐等アリ。

製油植物ニハ、大豆、薔藎(あぶらな)、胡麻、落花生、烏白(なんきんばせ)、茶、樟樹、罌麻等ナリ。

商業植物ニハ、烟草、通脫木、赤地利(つるうば)、紅草(たほけたで)、姜黃、染料、薯蕷等アリ。

動物

本島ニハ、禽獸、蟲、魚トモ、甚ダ奇異ナルモノアラズ、唯、此ノ地ニ、鳥、鴉、ヲ見ザルヲ以テ、異トナスノミ。

禽類ニハ、鷓鴣、鶉、鳩、山鶉、鶺鴒、くひな、小鴨、鳧ノ類アリ、而シテ野雞ニ、數多ノ種類アリ。

獸類中、鹿ヲ以テ重ナルモノトシ、又、深山ニハ、熊、豹、狼等ノ猛獸住ミ、其ノ他、猿、野猪、兎、栗鼠、臭猫ノ類アリ、山猫ハ、處ニ隨ヒテ棲息セリ、水牛ハ、農事ヲ助ケシムルタメ、コレヲ飼養シ、騾馬ハ、乘客ノタメ、借馬トナス、モノアリ、豕ハ、食用ニ供スルタメ、コレヲ養ヘリ。蟲類ニハ、蟒、蛇、壁虎、全蠍、蝶、蛾、甲蟲等種々アリテ、人身ヲ噬サバ、忽チ腫痛ヲ起スベキ毒蟲少カラズト云フ。

魚類ニハ、松魚、鰻、鱧、鮪等ヲ主ナルモノトシ、其ノ他、鯉、鮒、泥鰌、鰻、鱧等アリ。

特殊ノ事業

臺灣島ニ於ケル實業ノ主要ナルモノハ、北部ノ茶ノ耕作製造、南部ノ甘蔗ノ耕作、及ビ砂糖製造、石炭採掘、硫黄採掘、樟腦製造、沙金淘汰ユレナリ。

茶樹ハ、臺北ノ一大産物ニシテ、其ノ茶園ハ、臺北府ヨリ北ハ、二十英里、東ハ、三十英里ヨリ、五十英里、南ハ、四十英里ノ地方ニ達セリ、茶樹ハ、山ノ半腹ニ於ケル軟土ニ栽培シ、更ニ肥料ヲ用ヰズ、摘芽ノ第一期ハ、五、六、七ノ三ヶ月ニシテ、ユレナリ良好ノ品トス、第二期三ノ摘芽期ハ、七月ノ末ヨリ、八、九、十月トス。

臺灣ノ甘蔗ニ、二種アリ、一チ赤蔗ト云ヒ、一チ竹蔗ト云フ、甲ハ、其ノ色亦ク乙ハ、其ノ色白シ、其ノ白色ナルモノチ、普通ノ甘蔗トス、二種トモニ成熟スルトキハ、七八尺ヨリ一丈餘ノ高サニ達セリ、園圃ニ、甘蔗ヲ植ウルニハ、初メ、甘蔗ノ截リ節、七八寸許リノモ

ノチ、地中ニ挿ミ入レテ、少許ノ草ヲ燒キ、其ノ灰ヲ散布スル外、更ニ肥料ヲ施スコトナク、只、雨露ノ潤澤ヲ仰グノミナレドモ、發育宜シク、糖汁モ、亦充實セリト云フ。

石炭ハ、西部沿岸一帯ノ地方ヲ除ク外、南北共ニ存在スベシ、其ノ所在ノ深淺ト、種類ノ良否トハ、ユレアルベシト雖モ、全島中無量ノ石炭屬アルベシ、其ノ中最モ、主要ナル石炭礦ハ、基隆附近ノ東南岸ニアリ。

硫黄ハ、淡水川ノ一支流ナル、基隆川ノ右岸ニ、一ノ小山脉アリ、其ノサキニ、復一小山脉アリテ、自ラ豁谷ヲナス、其ノ近傍ニ、泉ノ沸騰セルアリ、臭氣甚シ、コレ、北臺灣ノ硫黄製造ノ中心トモイフベシ。

樟腦ヲ製造スベキ原料ナル樟樹ハ、多ク蕃族ノ地方ニ産シ、其ノ大ナルモノハ、高サ空ニ聳エ、直徑六尺ニ及ブモノアリ、而シテ臺

灣産ノ樟腦ハ、方今無烟火藥ノ原料ナルヲ以テ、其ノ賣買頗ル活潑ナリ。
沙金ハ基隆河ノ上流ニ於テ、淘汰獲收シ得ベシト傳ヘ、又蕃人ノ城内南方ノ小川ニ於テ、多量ノ沙金ヲ流出セリト傳フ、今ヨリ探掘淘汰ノ術進マバ、幾許ノ金ヲ得ベキヤ計リ難シ。

農業

臺灣ハ、土地非常ニ肥沃ニシテ、比類ナキ饒多ノ收穫ヲ得ベシ。
稻米ハ、毎年四月ヨリ十一月ニ至ル間ニ、二度ノ收穫ヲ得、其ノ第一ノ收穫期ハ、七月ニシテ、第二ノ收穫期ハ、十一月トス。
陸稻ハ、灌溉不便ナル山地ニ栽培シ、通常ノ降雨ヲ以テ、足レリトス。
米ニ亞ギテ、重要ナルモノハ、甘藷ニシテ、ユレ、亦米ノ如ク、二回ノ收穫アリト云フ。

小麥ハ、毎年十一月ニ種子ヲ下シ、五月、ユレヲ刈リ取ルヲ通常トス、其ノ他、黍、高黍、玉蜀黍、蕎麥等ハ、春夏ノ間、到ル處トシテ、植エザルハナシ。
甘藷ノ外ニモ、塊根ヲ有スル植物、六種アリテ、水中ニ生ズルモノニ、二種アリ、一ナ檳榔心芋ト云ヒ、一ナ赤芋ト云フ、狗蹄芋、白芋、麩芋、赤竹芋ノ四種ハ、陸地ニ生ズルモノナリ。
其ノ他、菜蔬、菓實ニハ、野山藥、山草薺、筍、蓮、落花生、胡麻、葱、韭、甘藷、菠稜草、れらんだみつば、蕪菁、蒜、豌豆、らんだからし、西瓜、冬瓜、胡瓜、茄子、楊梅、甘蕉、蕃石榴、波羅蜜、芒果、橙、桃、まめ、びき、あななす、洋李、柚、まるめゑ等アリ。

商況

臺南輸出品ノ重ナルモノハ、砂糖ニシテ、臺北輸出品ノ主ナルモノハ、茶葉ナリ、從來内地ヨリ輸入セシモノハ、上州、縮、紀州、ねる、阿波縮、

莫大小錫いたら貝、小蝦米、陶器ニハ、小皿、小鉢、漆器ニハ、卵形ノ盆、菓子器等ナリ。

道路

淡水港ヨリ基隆ヲ經テ、臺北ニ至ルモノト、基隆ヨリ宜蘭ヲ經テ、蘇澳ニ至ルモノト、臺北ヨリ臺南ヲ經テ、打狗港ニ至ルモノトノ三道ハ、稀ニ峻坂險路アリト雖モ、敢テ旅行難シトセズ。

鐵道

臺北ト、東方基隆トノ間ニアル鐵道ハ、二十哩ニシテ、停車場ハ、錫口、南港、水返脚、八堵、嵌仔口ノ五トス。而シテ、嵌仔口ト基隆トノ間ニ、獅球嶺ト云ヘル高キ山アリ、此ノ山下ニ、二百五十ヤードノ隧道ヲ穿テ、基隆ニ通ズ。又、臺北ヨリ南方、新竹ニ至ル鐵道ハ、三十哩餘ニシテ、今尙ホ南方ニ向ヒテ工事中ナリ、輕便鐵道ハ、打狗ヲ起點トシテ、臺南ニ至リ、臺南ヨリ安平ニ達スルモノニシテ、全線ノ長サハ、殆ド

三十哩アリ。

電信

電信局ハ、基隆、淡水、臺北、臺南、安平、打狗、澎湖ノ七處ニアリテ、澎湖島ト、安平港トハ、海底電線ヲ以テ連絡ス、其ノ他琉球諸島及ヒ九州島ヘ、達スベキ海底電線敷設ノ計畫中ナリ。

住民

支那本部ヨリ移住セシ人民ハ、風俗敦厚ニシテ、男子ハ耕作ヲ業トシ、婦女子ハ縫箔ヲ巧ニス、其ノ風俗ハ、支那本土ト大差ナク、男子ハ辮髮シ、女子ハ大抵縮足ス。
東部ノ生蕃ハ、昔ヨリ十八蕃社アリト云ヒ、或ハ、上十八社、下十八社ト、唱ヘ、各十八個ノ蕃社アリシト傳ヘ、或ハ、蕃社ノ數ハ、五十八ニシテ、其ノ外ニ、卑南蕃社ト云ヘルモノアリテ、コレヲ分ケテ、四十六社トナセリト云フ、其ノ種族ヲ大別スルトキハ、僅ニ四種族ナリ、一ニ

曰ク、ばいわん種族ニ曰ク、でぼん種族、三ニ曰ク、あみやす種族、四ニ曰ク、べぼうらん種族トス、皆、化外ノ民ニシテ、頑冥粗暴、常ニ争鬪ヲ事トス。
西部ニ生活スル土人ハ、漸ク、海岸ニ接近セル地ニ移住シ、稍ヤ、半開化ノ風ヲ慕ヒ、蠻風ヲ脱スルモノ、如シ。

言語

土蕃ハ、元ト、何レノ處ヨリ、來リシモノナルカヲ確知スルコト能ハズ、或ハ、馬來人種ナリト云ヒ、或ハ、白哲人種モ、少シク混交スベシト云ヒ、或ハ、琉球、宮古島邊ノ移住者モアルベシト云ヒ、或ハ、ふひりつびん群島ヨリ、渡來セリト云フ、故ニ其ノ言語ノ歸スルトコロヲ知ラズ。

數量

一イ〇チ、二チ〇マン、三サン、四シー、五ンゴ、六ラッ、七チー、八ボイ、九カウ、十ツアア

時辰

一分チッ、フン、十分ツアア、フン、一日、チッ、チッ、一ヶ月、チッ、ユグ、オイ、一年、チッ、ニーン、夜、ミー、シー、今日、キン、ナン、チッ、明日、ミン、ナン、チッ、明後日、ミン、アウ、セッ、昨日、ツア、チッ

曆月

正月、チヤ、グ、オイ、二月、チ、グ、オイ、三月、サン、グ、オイ、四月、シー、グ、オイ、五月、ンゴ、グ、オイ、六月、ラ、グ、オイ、七月、チ、グ、オイ、八月、ボイ、グ、オイ、九月、カウ、グ、オイ、十月、ツア、グ、オイ、十一月、ツア、ブイ、グ、オイ、十二月、ツア、ブ、グ、オイ

四季及ビ方角

春、ツウ、ン、夏、ハー、秋、チ、ヨ、ン、冬、トン、東、タン、西、サイ、南、ナヌ、北、バツ

天文及ビ地理

天、チ、ン、日、チ、月、グ、オイ、星、チ、ン、雲、フ、ン、雨、ホ、ー、雪、ス、ー、霜、ス、ン、露、ロ、ツ、イ、霧、ブ、ー、電、バ、ウ、雷、ル、イ、コ、ン、虹、キ、エ、ン、風、ホ、ー、ン、世界、セ、ー、カ、イ、山、ソ、ア、ン、地、ト、イ、河、ホ、ー、陸、リ、ヨ、ロ、ー、島、ハ、イ、ト、ウ、海、ハ、イ、大洋、ト、ア、ヨ、ン、火山、ホ、エ、イ、ソ、ア、ン、湖、オ、ー、水、ツ、イ

永ヒン 石チヨウ 池ヂー 路ロー 橋キヨウ

人倫

男タツポー 女ツアモー 男の子タツポーキヤン 女の子ツアモーキヤン 両親ベームー
父ラウベー 母ラウムー 兄コー 弟テイ 姉トアケイ 妹シユモイ 夫アシ 妻モー
朋友ベンイユー

政治

臺灣全島ノ我ガ版圖ニ歸セシ以來日淺キヲ以テ施政未ダ全キヲ
得ズ現時臺北ニ臺灣總督府ヲ臺北臺灣臺南ニ各縣ヲ澎湖埔里社
ニ各民政部支廳ヲ置キテ全島ヲ管轄セリ舊ト支那ニ屬セシトキ
ハ臺灣府臺灣縣鳳山縣嘉義縣彰化縣恒春縣埔里社廳臺南府安平
縣雲林縣苗栗縣澎湖廳臺北府淡水縣新竹縣基隆廳宜蘭縣臺東直
隸州ノ三府一州十一縣三廳ニ區分シタリキ。

地理科 臺灣地圖 附地誌略終
補習用

明治二十九年一月六日印刷
明治二十九年一月十三日發行

正價金七錢五厘

120.2

版 權 所 有

校閱者 岡村增太郎

著 者 篠崎純吉

發行者 松村九兵衛

印刷者 前野茂久次

大坂市南區心齋橋筋一丁目六十七番屋敷
大坂市東區和泉町二丁目八番屋敷

學校教場用地圖

岡村增太郎校閱 篠崎純吉著

學校用臺灣島地圖 附還付地圖

縱五尺
橫三尺五寸

全一幅

定價金八拾錢

千 辨 源 藏 編

大日本國海陸精圖

縱五尺
橫四尺五寸

全一幅

定價金壹圓二拾五錢

增野立三郎編輯

日本暗射地圖

全一幅

定價金壹圓五拾錢

增野立三郎編輯

萬國暗射地圖

全三幅

定價金貳

圓

